

〔研究動向〕

クイア人類学の可能性を探る

— 男性ジェンダー研究とセクシュアリティ研究の架橋 —

新ヶ江 章友

一 はじめに

本論の目的は、クイア人類学という新たな学問領域の可能性を模索することにある。クイア人類学とは、異性愛規範 (heteronormativity) を支えている基盤そのものを、同性愛やトランスジェンダーなどの非規範的なセクシュアリティの視線——クイアな視線——から逆照射する学問である。クイア人類学という用語は、ベルストーフが二〇〇七年のレビュー論文の中で初めて使用した「Boellstorff 2007: 25」。彼自身、クイア人類学という表現自体にあまり納得してはいないようではあるが、非規範的なセクシュアリティを広く包摂する用語として「クイア」を使用している。クイア人類学とは、レズビアンやゲイのみならず、トランスジェンダー、トランスセクシュアル、バイセクシュアルなど、様々なジェン

ダーやセクシュアリティを列挙しつつ、それぞれを交差させながら異性愛規範そのものを問う研究である。クイア人類学は、これまで人類学において別個のものとしてえられがちであったジェンダー研究とセクシュアリティ研究をより積極的に関係づけることよって、規範とされてきた性のあり方そのものを、差異化され排除された者たちの視線から批判的に問い、異性愛規範の真正性を揺るがしていこうとする。

本論では、レビューの対象を男性ジェンダー研究と男性同性的間のセクシュアリティ研究に限定し、それらの研究をクイア人類学の立場から批判的に検討する。まずは、男性ジェンダーをめぐる人類学的研究がいかになされてきたのかを第二節で整理する。男性ジェンダーをめぐる人類学的研究は、社会において男性性がいかに構築されていくのかを中心に分析がなされてきた。しかしそれらの研究では男性性から排除さ

れる男性への関心が希薄であり、まずはその点を指摘する。第三節の前半では、セクシュアリティ研究の中に位置付けられてきたレズビアン／ゲイ人類学のレビューを行う。レズビアン／ゲイ人類学は、男性ジェンダー研究が等視してきた異性愛規範からずれる人々を主にあつてきた。だがレズビアン／ゲイ人類学は、世界のいたるところに「同性愛」を見つけ出し民族誌として記述しようとするあまり、それらを列挙することに終始してしまい、十分な理論化にまではいっていない。ここでは、レズビアン／ゲイ人類学の限界を指摘する。第三節の後半以降では、ゲイ男性の主体や性的実践と異性愛規範との関係についてレビューする。クイアな視点とは、異性愛規範そのものの真正性をすらそうとする。とりわけクイア人類学の試みの一例として、クイアな主体の形成や実践がHIV/AIDSの文脈の中でいかになされているのかをレビューする。そして最後の第四節で、クイア人類学において今後どのような研究の可能性があるのかについて吟味したい。この節では、クイア人類学の中でも、とりわけゲイ男性がその議論の中心的な位置を占めるあまり、トランスジェンダーとの差異化を強くおし進めることになった点を指摘する。今後の研究としては、ジェンダーやセクシュアリティというカテゴリーをそれぞれ保ちつつ交差させながら、新たな研究領域としてのクイア人類学を目指す必要がある点を指摘する。

二 男性性をめぐる人類学

1 男性性のヘゲモニー——中心を描く

ここではまず、男性性をめぐる人類学的研究がいかになされてきたのかを整理し、男性ジェンダー研究をクイアな視点から分析するための足がかりとする。

人類学におけるジェンダー研究では、男性性は社会構造を維持していく上での重要な規範であると指摘されてきた。これまで人類学的研究の多くは伝統社会を対象としており、一般的に男性性とは、生まれつき備わった固定的なものではなく、様々な試練や教育を経て身につけていかなければならぬ不安定で人為的なものであることを明らかにしてきた [GILMORE 1980]。死を恐れずに危険に立ち向かうこと、一人前の男になるために厳しい通過儀礼を経験すること、様々な試練に耐えながらそれを乗り越えることなど、男であるのかどうかを試されることによって、「男になる」社会的過程が広くみられることが報告されてきた [e.g. BERKARD 1987; MARSHALL 1979; HERRON (ed.) 1982]。

ギルモアは、「男性性とは、集団生活を危険にさらすエントロピー、人間の敵、自然の威力、時の流れ、人間のあらゆる弱点に抵抗して、社会が構築しなければならぬ社会的防御柵」だと述べている [ギルモア 一九九四：二七〇]。つまり男性性のイデオロギーは、社会的環境への適応の結果生じたものであり、「環境が厳しければ厳しいほど、また資源

が少なければ少ないほど、男性性が、誘因や目標として、一層強調される」。また、「女を妊娠させ、被保護者を危険から守り、親戚一同に食料を供給する」という三つの道徳的命令が、ほとんどの社会に共通する一人前の男に要求されることである [ギルモア 一九九四：二六六—二六九]。人間の社会的環境への適応過程として男性性が構築されているのであれば、その男性性のあり方そのものも社会によって様々に異なることとなる。

これまで人類学者が伝統社会での調査から明らかにしてきた男性性をめぐる知見は、現代社会の分析にも有効である。その一例が、男性性と軍事化との関係に着目した研究である。男性性と軍事化をめぐる研究は、近年社会学、政治学、国際関係論の分野でさかんに行われるようになってきている [e.g. CONNELL 1987; HIGGINS 2003]。フェミニズムの視点から軍事化の研究を行っている政治学者エンローは、軍事化の原因と帰結の根本に男性性の問題があると言っている [ENLOW 2007]。たとえば、様々な軍事訓練を通して軍人の男らしさが形成されていく一方、訓練で失敗すると「お前は男か」と言われ侮蔑される。つまり、軍が要求する「真の男らしさ」を表現しようとする人々と「真の男になれない」人々が、効果的に差異化されることで軍の秩序が保たれる [WELFORTH 2004]。また、兵役を拒否する人々と男性ジェンダーに関する人類学的研究も、近年、新たな研究領域として設定されるようになっていく。成人になると、男性に兵役義務を課す国や地域は

多く存在する。たとえば、アメリカ合衆国における「良心的兵役拒否者 (conscientious objector)」についての研究は、人類学の分野でも広く存在している [LUTZ 2006; BROWN and LUTZ 2007]。軍隊における女性軍人や (その存在が常に隠蔽されている) 同性愛者の軍人への調査を通して、男性性と軍事化の構造をより明確にする分析が、今後さらに必要となるであろう [e.g. 佐藤 二〇〇四]。

一方、学校における男子学生のジェンダー形成も、軍隊における男らしさのパフォーマンスと共通した構造をもつことが、近年の研究で報告されている [e.g. PASCOE 2007; ROSES 2005]。例えばコーネルは、学校におけるじめで、じめられる男子学生はしばしば女性化されてからかわれたり、同性愛者のレッテルを貼られたりすると指摘する [CONNELL 1995]。このようなじめをこつじて、じめを行う男子学生は女性と同性愛者を蔑視する姿勢を無意識のうちに学び、自らを「真の男」として差異化しようとする。男が男らしくあるための一つの条件は、いかに女性嫌悪的で同性愛嫌悪的であるかにかかっているとも言える [BRISTOW 1989]。

2 男性性からのずれ——周縁を描く

男性性のイデオロギーが人間を存続させるための社会構造の再生産にくみし、男たちを男らしく主体化させるプロセスにおいて、そのプロセスになじめない男たちは周縁に位置づけられる。そして中心からずれる男性は、社会のなかで一定

の位置を占めることになる。むしろ社会は、ずれた男性を差異化することで成立しているのである。では、ジェンダーを理論枠組みとする研究の中で、男性性の秩序から周辺化されてきた男性たちはいかに記述されてきたのだろうか。ここからは男性性をめぐる人類学において、その秩序からこぼれおちた人々がどのように記述されてきたのかを見ていく。

ハートは、パプアニューギニアのサンピア社会における男性性の形成に関する民族誌において、肉体的にも精神的にも激しい痛みを伴う儀礼を通して、少年が一人前の男になっていく過程を描いている [HARDY 1981]。サンピア社会では、少年は男性同性間の精液授受を伴う儀礼を通して生殖能力を備えた一人前の男になると考えられているが、妻子がいない成人男性は一人前の男とはみなされず、社会の中で窮屈な思いをしなければならなくなる。このような男性は中期にさしかかると集団から浮き上がった存在となり、物笑いの種にされるという [HARDY and STOLLER 1990]。

スペイン南部のアンタルシア地方の男性性をめぐっては、ギルモアの民族誌がある。この地方での理想的な男性像とは、数多くの冒険や危険に挑み、強引なセックスを要求し、共同体と家族を保護する男性であり、いかに「うま／＼」男としてパフォーマンスするのが重要な鍵となる [GLAUBRE 1980]。この地中海社会の理想の男性像からずれる存在として、二人の男性の事例をギルモアは挙げている。この地方の男は、広場などの公共の場で自由な時間を過ごし、愛想良く

皆とつきあうべきだと考えられているが、例に挙げられた二人の男性はその男性像から大きくずれている。両者ともほとんど公共の場に現れることはなく、性格的にも内向的であり、また最も問題とされたのは性的に臆病だと考えられていたことであった。

また、性的虐待を受けた少年をめぐる医療人類学的研究によると、そのような少年は成長過程において男性性のヘゲモニーの中で葛藤を経験するという。例えばガートナーによると、成人男性——とりわけ近親者の男性——から性的虐待を受けた少年は、他の男性から再び被害を受けるかもしれないという恐怖のために、同性の友人がほとんどおらず孤立状態におちいる。一方、女性からの性的虐待を受けた場合には、それは喜ぶべき出来事だと考える周りの一般通念のために、少年は自らの受けた外傷的经验——自分は男なのに性的に愛身となってしまった——と、男としてのジェンダー認識の間で揺れ動くことになる [GARTNER 1998]。性的虐待を受けてきた少年が何らかの精神障害を誘発した場合、その治療にとって重要となるのは、少年の否定された男性性を回復することであるとガートナーは考えていたが、その考えに対しては批判も多い [e.g. LEVANT and KOPECKY 1985]。たとえば、フェミニストの治療家などは、「男らしく」社会化されること自体がトラウマ的经验であり、男性の社会化自体を問題視すべきだと主張している [MORRIS 1987]。

男性性のヘゲモニーは、科学技術とも関連している。例え

ばアメリカ合衆国においては、宇宙開発やIT産業などの科学技術を中心とした知識労働がアメリカ合衆国の誇りであり、それは同時に中産階級男性の男性性を保証するものであった。しかし近年、これらの知識労働がインドや中国などのアジア地域へのアウトソーシング (outsourcing) を通じて安価に流失することで、アメリカ人中産階級男性はリストラされ、その「男らしさ」が危機に瀕している。つまり、知識労働と結びついたアメリカ人中産階級男性の誇りが骨抜きにされてしまったのである。このように知識労働においてリストラされた中産階級の男たちは、その怒りの矛先を九・一一以降の移民排斥に向け、ナシヨナリズムを高揚させているという [ONS 2006]。

本節では、男性性のヘゲモニーがいかに形成され、その規範からずれる男性がいかに効果的に差異化されるのかを示した。しかしながら、これまでの人類学における男性ジェンダー研究を要約すれば、男性性の周縁よりも主に中心そのものに焦点を当ててきたと言ふことができるだろう [GUTMAN 1997: 386]。だが、規範としての男性性がどのようなプロセスを通して構築されているのかを知るには、そのずれとして位置付けられる／あるいははずれていると自認している人々の聞き取りをより詳細に行う必要がある。周縁から中心を逆照射しようとするクイア人類学から見れば、これまでの男性ジェンダー研究は男性性の周縁への目配せがあまり十分だとは言えないのである [cf. GUTMAN 1996; PELTZ 1996; TIZIN

1997]。

三 男性同性間のセクシュアリティをめぐる人類学

1 性的実践の地図化——周縁を再定位する

現代社会における男性同性間の性的実践は、男性性のヘゲモニーとの関係において常に周縁化されてきた。したがって男性同性間のセクシュアリティをめぐる人類学は、男性ジェンダー研究が十分に組み込んでこなかった男性性の周縁を知る上で重要な位置づけにある。本章では、男性同性間のセクシュアリティについて中心的に扱ってきたレズビアン／ゲイ人類学の視点からのレビューを行い、この研究領域の可能性と限界について指摘する。

男性同性間の性的実践をめぐる民族誌的調査は、人類学の中でもタブーな領域として十分に研究が行われてこなかったが [VANCE 1991]、一九九〇年代以降、レズビアン／ゲイ人類学としてめざましく制度化されてきた [WILSON 1983]。そうした動きの背景の一つに、一九八〇年代以降のHIV/AIDSの世界的流行があげられる。医療人類学者やゲイ人類学者らはHIV/AIDSの流行に伴って、男性同性間の性的実践をめぐる民族誌的研究に従事するようになった [PARKER 2001]。こうして、異性愛規範の中で周縁化されてきた人々の声が、次第に民族誌の中で明らかにされてきたのである。

レズビアン／ゲイ人類学がまず行ったことは、世界の様々

な地域文化における男性同性間の性的実践の証拠を見つけて出し、民族誌的なデータを蓄積することであった [WILSON 1993: 340-344]。その結果分かってきたことは、男性同性間の性的実践や性愛に対して寛容な社会も多く存在し、その性的実践そのものが儀礼などとおして社会に組み込まれていたということであった。たとえば、アメリカ先住民に見られるバルターシユに関する研究では、その存在が軽蔑やからかいの対象になるといふ報告がある一方 [GREENBERG 1988]、彼／彼女らは既存の秩序に新たな意味を付与する文化的英雄や崇拜の対象としてあがめられるとも言われている [ROSCOE 1987]。

しかし、異文化の男性同性間のセクシュアリティについて研究しようとした場合、様々な問題が生じる。レスビアン／ゲイ人類学の問題点は、そもそもゲイやレスビアンなどのアイデンティティそのものが西欧社会に由来する概念であるにもかかわらず [FOUCAULT 1976; WELLS 1987]、それを無批判に異文化に適用して分析しようとしている点にある。この難点を乗り切るために、近年西欧の同性愛者を「ゲイ」と呼ぶのに対し、非西欧の男性同性間で性愛関係をもつものを [MSM (Men who have Sex with Men)] と呼ぶ試みもある [cf. PARKER 1999]。また、そもそも私たちが当然のものとして想定している性的欲望、性的決裂、性行動という概念そのものも西欧社会に由来する概念であり、「性的」の定義そのものが何を意味するのかもフィールドワークを行う社会・文

化の文脈を考慮しなければ全く意味をなさない。したがって西欧のゲイ概念とは別に、男性同性間での性的実践における感情、信念、シンボリックな意味、道徳観などの文化的モデルを理解しようとする「性文化」と呼ばれる概念が提示されたりしてきた [ハート 二〇〇二: 四八—四九]。

男性同性間の性的実践が社会の中で制度化されている場合、その性的実践は秩序化されている。その一つが、年齢に基づく秩序である。年齢に基づく性的実践の秩序とは、年長者が年少者に対してアナルセックスやオーラルセックスをする際には必ず挿入する側になるというものであり、この逆の行為は厳しく禁じられる [DOVER 1978; HERDT 1981]。年齢に基づく性的実践は、年長者が年少者を支配するということを意味し [GREEN 1984]、性的に受身となることは相手に服従させられることにつながると解釈されている [CUTLER 1987]。

一方、男性が男性を性的に服従させることで、国家や共同体の秩序を維持しようとする場合があることも明らかにされてきた [e.g. CARNER 1995; PARKER 1999; MURRAY (ed.) 1987]。ここで重要なのは、男性同性間の性的実践において性的に受身になる側——アナルセックスを行う際に挿入される側——のみが非難の対象になるということである。例えばニカラグアでは、男性同性間で性行爲を行ったとしても、受身の *coton* と呼ばれる側のみが差別の対象となる。つまり、相手が男であるか女であるかにかかわらず (対象選択) 、

挿入するか／されるかがより重要になる。この場合、女性ではなく男性が挿入されることが重要なのであり、挿入する側はむしろ自らの「男らしさ」を証明したとして賞賛の対象にすらなる [LANCASTER 1992]。

また男性が、女装している男性と性行爲を行っても社会秩序を脅かすものではないという、ジェンダー転換に基づく性的実践の秩序も存在する。これらの研究は「第三のジェンダー」との文脈で研究されている。この事例としては、アメリカのヘルターシユ [CALENDER and KOCHENS 1983; GREENBERG 1988; ROSCOE 1987]、タビチのソム [LEVY 1973]、トンドのソムラ [NANDA 1990; RENDY 2005; 國弘 二〇〇九]、オマーンのハンニム [WHEAT 1987] などがある。

クイア人類学から見たレスビアン／ゲイ人類学の欠点は、男性同性間のセクシュアリティが異性愛規範から周縁化され排除されている点を、レスビアン／ゲイ研究者自身が補強しているところにある。つまり、様々な地域の男性同性間のセクシュアリティを人類学的に再定位することは、異性愛規範そのものを下支えることになる。レスビアン／ゲイ人類学は、自らの周縁性を自ら肯定するのみで、中心とされている男性ジェンダーそのものの虚構性を暴くまでには至っていない。この点を考慮しない限り、自らの周縁性を肯定するのみで終わってしまうことになる。

もう一つの大きな欠点は、レスビアン／ゲイ人類学の問題関心の多くが、男性同性間のセクシュアリティに向けられて

おり、この傾向自体がゲイ男性の男性性を強化する一方、トランスジェンダーをますます他者化していくことになるのではないかとということである。この点については、最終節で再びとりあげる。

2 HIV/AIDSとクイアな実践——中心をずらす

近年のクイア人類学では、ジェンダー／セクシュアリティとグローバルゼーション／ナショナリズム、あるいは人権や階級などの関係について積極的に問おうとしてきた [MCELAND 2000; BARR 2003; MANALANSAN 2003]。一九八〇年代以降世界的に流行したHIV/AIDSは、ゲイという主体の生成とグローバルゼーション／ナショナリズムとの関係を考慮するための重要な契機となった。レスビアン／ゲイ人類学が地図化してきたような地域に根付いた伝統社会の同性愛に対する見方そのものの再考を、HIV/AIDSは迫ることとなった。つまりHIV/AIDSの世界的流行をきっかけとして、西欧社会特有の主体と思われていたゲイの表象がグローバルに流通し、その結果、規範となった西欧型のゲイという主体もグローバル化していくこととなったのである [ALTMAN 2001]。

だが、西欧型のゲイという主体が一律にグローバル化していったわけではなかった。たとえばインドネシアの男性同性愛者は、伝統社会の土地に根付いていたトランスジェンダーであるワリアではなく、グローバルに流通するゲイの表象

に自らの姿を重ね合わせることで、グローバルなネットワークの中に組み込まれていく。しかしここで重要なのは、インドネシアのゲイが西欧型のゲイをオリジナルとしていたわけでは必ずしもなく、むしろそれをすっ飛ばしていることにある。一見すると、グローバル化によって西欧型のゲイという主体が世界のいたるところで均等に生成されていくように見えるが、様々な地域文化でゲイという主体の「ダビング」が繰り返される。したがって様々な地域文化に生きるゲイは、もはや西欧のゲイのみをオリジナルとはしない。西欧のゲイを模倣しながらもずれ続け、結果としてナショナリズムを支えられた「インドネシアのゲイ」が生成されていくのである【Boellstorff 2005】。

一方、西欧社会のゲイ男性とHIV/AIDSをめぐる研究においては、男性同性間の性的実践そのものが男性性の規範をクイア化しているという指摘がある。フロイトによる精神分析が誕生して以来、西欧社会の男性同性愛者は常に女性的な存在として表象されてきた【Feld 1995】。しかしながら、一九六〇年代にアメリカ合衆国で発生した性革命とゲイ解放運動によって、男性同性愛者が女性化しているというステレオタイプが次第に修正されていくこととなった。つまり、それまで隠蔽されていた「マッチョなゲイ」が表象されてくるようになるのである【Bayer 1987】。男性と性行為を行う男性は必ずしも女性的ではなく、逆に過剰な男性性を強調することもある【e.g. Rubin 1991; Hennen 2005; Mosher

et al. 2005】。欧米や日本のような資本主義が浸透した現代社会に生きるゲイ男性は、強くステイグマ化されている。したがって、男性性のヘゲモニーから周縁化されるゲイ男性のトラウマの経験が、男性性を過度に強調するような性的実践においてどのように現れるのかを分析することは、近年男性性と性行為を行う男性の間で流行しているHIV/AIDSの感染予防という観点からも取り組まれる必要のある課題となる。

欧米社会のゲイ男性の性的実践に関する研究は、近年、男性性との関係からしばしば議論されている。HIV感染リスクの最も高いのは、HIVに感染した人とアナルセックス時に「コンドームを使用しないでペニスを挿入される行為である」。そのときに体内で射精されれば、HIV感染リスクは極めて高くなる。そのような行為の中でも、意図的にコンドームを使わずにアナルセックスを行うことは「ヘアバックング (backing)」と呼ばれている【Mansbach et al. 2002】。これは異性愛の性交渉で使われるのではなく、男性同性間のそれに特化して使用されている用語である。

「ヘアバックング」が発生する社会的要因として、同性愛者に対する社会的拒絶が背景にあると指摘する心理学者や社会学者も多いが【Holmes and Warner 2005; Riggs 2006】。「男らしさ」や「勇気」自由、親密な関係があることが「バックング」もある【Adam 2005; Rindge 2004; Haig 2006; Carballo-Dieglez et al. 2006】。とりわけ興味深いのは、男性と性行為を

行う男性は、その性的実践の中に「男らしさ」の要素——例えばレーザーを着用する、身体を過度に筋肉質にする、器具を用いて性を誇張する——を遊びとして取り入れることによって、性的快楽を高めている点である【Harkins and Parsons 2003】。男性同性間での性的実践において挿入されることは、必ずしも受身で女性的であるという意味づけがなされているわけではない。マッチョな男性が受身の性行為を行うこと自体が、興奮を喚起するのである。男性と性行為を行う男性は単に「従属化される男性性」の役割に甘んじているのではなく、男性性のヘゲモニーを自分たちの性的実践の中に遊びとして取り込みながら「男らしさ」を過度にパロディ化し、それをすらすらとしているのだとドウセットらは指摘している【Dowsett et al. 2008】。

もともと、男性同性間の性的実践が男性性をクイア化しているのではなく、むしろ男性性のヘゲモニーを強化しているという指摘もある【McInnes et al. 2009】。例えば、ゲイだということのカミングアウトしないゲイ男性は、自らのセクシユアリティを隠し男性性のヘゲモニーの中に安住しながら、男性が得られる特権を享受することが可能である。つまり、ヘテロセクシユアルな男性性のヘゲモニーには従属させられているが、男女のジェンダー秩序においてはヘゲモニーの中に位置づけられたままである。この点は他に、ゲイ男性の女性嫌悪の問題【McCune Jr. 2004】やゲイ男性と女性との友情関係の問題【Shepherd et al. 2010】としても議論されている。

る。

四 クイア人類学の可能性に向けて

以上、男性ジェンダー研究と男性同性間のセクシユアリティ研究をそれぞれ検討することで、クイア人類学という新たな研究の可能性について探ろうとしてきた。最後に、クイア人類学の試みが何を目指そうとしているのかを吟味したい。

まずは、本論の流れを一度整理したい。人類学における男性ジェンダー研究では、男性性がどのようにして構築されていくのかに注目するあまり、その男性性の規範から差異化される男性への注目が十分には行われてこなかった。一方、レズビアン/ゲイ人類学は、異性愛のジェンダー規範からずれる人々の実践に着目してきた。しかしここで問題となってきたことは、トランスジェンダーをめぐる人類学的研究が、ゲイ男性の男性性の研究と効果的に差異化されていく危険性があつたということである。つまり、同じ男性同性愛であつても、トランスジェンダーやトランスセクシユアルを含む女性化された男性同性愛の研究と、男性的な男性同性愛の研究が分離されていった。その結果、男らしいゲイ男性は社会の中で異性愛男性との差異がますます見えにくくなっていく一方、トランスジェンダーは男性的なゲイ男性にとつての他者となっていく。グローバルな資本主義経済にますます迎合し主体化していく男性的なゲイ男性を、デュガンは「同性愛規範 (homonormativity)」という視点から批判的に分析して

いる [DUGGAN 2003]。

クィア人類学の目的は、異性愛規範を問うことにあった。異性愛というセクシュアリティは、まず男/女というジェンダーの二項対立を前提としている。その男/女のジェンダー関係に基づき、同性愛/異性愛というセクシュアリティがある。つまり異性愛規範を問うというのは、男/女のジェンダーの二項対立と同性愛/異性愛のセクシュアリティの二項対立の両方を問うことを意味する。つまりクィア人類学は、この男/女と同性愛/異性愛の両方を問うことで、異性愛規範そのものを脱構築することを目指す研究である。

ここで再度、本論の副題でもあったジェンダー研究とセクシュアリティ研究を架橋するという点について振り返ってみたい。本論の序論でふれたベルストーフは、ジェンダーとセクシュアリティはそもそも別物であり、一つに混ざり合うものではないと指摘する。たしかに両者は異なる性質のものであり、互いが互いを支えとしながら存在する。ベルストーフは、このジェンダーとセクシュアリティを一つに統合するのではなく、サイボーグ的に「接続」していく必要性について述べている [BOALSTORF 2007: 27]。その際、人種や階級などの様々な問題系と交差 (intersectionality) をせながら、ジェンダーとセクシュアリティの分析が行われていくことの重要性を指摘する。

またバレンタインは、ジェンダーとセクシュアリティがそれぞれ別個の領域として研究されてきたことそのものに批判

的視点を向けている。ニューヨークでトランスジェンダーの調査を行ってきたバレンタインは、「トランスジェンダー」を一つのカテゴリとして分析することの政治性を指摘している。ここで、彼の民族誌の事例を挙げてみる。アフリカ系

アメリカ人で二〇歳のチェリーは、生物学的には男であるが自らを女だと自認して女性の格好をしたり、ときには男性の格好をしたりしており、男を性的欲望の対象とするが自らをゲイだとは位置づけていない。自分のペニスクリトリスと読み替え、性転換手術も行っていない [VALENTINE 2007: 17-18]。チェリーの経験をジェンダーやセクシュアリティというカテゴリそれぞれに強引に位置づけた上で分析しようすれば、「彼女」の生きられた経験のダイナミズムが捨象されてしまうことになる。そもそもトランスジェンダーという用語は、医療従事者や研究者の間でしか認識されていない用語であり、チェリーのような事例をトランスジェンダーという枠組みで分析すること自体の暴力性について意識的であればならないと言ふ。またそこには、アフリカ系アメリカ人という人種の問題やスラム街に生きるという階級の問題も横たわる。これらジェンダーやセクシュアリティと、人種や階級などの問題を広く交差させていくことで、彼女の生きられた経験を理解しなければならぬとバレンタインは言う。

筆者は現在、日本在住のゲイ男性に関する民族誌的研究に従事しており、とりわけ彼らの間で流行している HIV/AIDS の問題に関心を寄せている。筆者の調査においても、

バレンタインが指摘することと同様のカテゴリの問題に直面する。例えば、筆者の想定している「ゲイ」というカテゴリは、本来セクシュアリティ研究に位置づけられる。しかしこのゲイというカテゴリも一枚岩ではない。私が出会った三〇歳代前半の A は、外見上は男性の服装をしている。しかし性自認は女だと言ひ、話し方やふるまい方は女性らしい。A は性転換手術をして生物学的にも女性に変わることは可能であるが、そのときに生じるホルモン投与による副作用や手術後の人生設計などの不安要素が大きい。ため、手術はし

たくないと言ふ。A がゲイバーなどに行くと、その女性らしいふるまいのために他のゲイからは恋愛対象としてみてもらえず、居心地の悪さを感じるといふ。この事例が示していることは、「ゲイ」というカテゴリそのものが人々の多様な経験を消去してしまう可能性があることであり、ジェンダーとセクシュアリティというどちらか一方の分析枠組みのみを用いることの危険性である。一般的には A の性的指向は男性であるためゲイとしてカテゴリ化されるのだからが、「彼女」はゲイとしてカテゴリ化されることそのものに違和感をもつ。以上のことと A の性行動、そして HIV/AIDS がどのように関係しているのかを調べることは、興味深い課題であると考えている。

クィア人類学が近年海外においてようやく制度化される兆しをみせている。しかし、ベルストーフが指摘するように、ジェンダーとセクシュアリティというカテゴリそのものは

融解できない。たしかに融解はできないが、両者をサイボーグ的に接続させながら人間の性を広く理解していくことが必要である。ある人々の経験をジェンダーかセクシュアリティかのどちらかにカテゴリ化する限り、その人々の経験の多様性を消去してしまう危険性がある。そのカテゴリ化の政治がはらむ問題を意識しつつ、今後クィア人類学のさらなる理論化が進むことが期待される。

注

(1) 社会学におけるクィア・スタディーズの概要に関して は、例えば河口 [二〇〇三] などを参照。

(2) 「クィア人類学」(The Critical Anthropology of Sexuality) という用語の可能性も吟味しているが、そうすると「フェミニスト人類学」なども広く含むことになるため、この用語の使用を避けることにして [BOALSTORF 2007: 18]。

(3) (1) にはアカデミズムにおける制度上の問題もある。例えば、レズビアン女性をはじめとする非規範的女性のセクシュアリティが人類学的研究の机上になかなかあがりにくいのなせかと考えた場合、必然的に女性の非規範的ジェンダーがゲイ男性の研究と比較すると注目されにくいという側面がある。ここに、セクシュアリティ研究そのものにジェンダーをめぐる権力関係が存在すると言えらる。

- (4) 例として、男同士の友情関係 [TIGER 1984; GAY 1985; ALLISON 1994]、*「傑出したゲイメンター」* [NANDA 1990; REDDY 2005 : 圖説 110〇九; 伊藤 110〇〇川]、*「ナムロナリズム」* [Mosse 1996; GAY 1992; BORNEMAN 1992]、*「植民地主義」* [Stoller 2002]、*「ドメスティック・マニエリシス」* [GUTMAN 1996; Bourgeois 1995; GARTNER 1999] など、その研究対象は多岐にわたる。
- (5) キルヒマンは、人間のジェンダー・イデオロギーは社会構造の再生産をいう目的に向けられ、単なる個人的自己実現とは関係なく、時にフェミニストやクィア・スタディーズを批判してゐるようにも見える [キルヒマン 一九九四: 二六九]。
- (6) 男性性をめぐると人類学的研究は、東南アジア [BLACKWOOD 1998; NILAN 2009; PELEZ 1996]、ラテンアメリカ [GIL 1997; LANCASTER 1992; GUTMAN 1996]、ヨーロッパ [HERZFELD 1985; PARTRIDGE 2008]、東アジア [FARQUHAR 1999]、地中海 [LECHRY 2005; MANDELBAUM 1988]、キプロス [KNAUF 2003; TUAN 1997]、中央 [KAPLAN 2003]、インド [PERRY 2009] などがある。
- (7) *「良心的経済活動家」*とは、思想、良心、宗教の自由の立場から、義務と権利の区別を拒否する権利を主張する者を含む。
- (8) 近年行われてくる世界各地の男性同性間の性愛をめぐると民族誌的アプローチ、例として、キルヒマン [JACKSON and COOK 1999; TAN 1995; MANNALANSAN 2003; 田藤 110〇〇

- 川]、*「ゲイアメリカ」* [LANCASTER 1992; CARREK 1996; GUTMAN 1996; CARRELLI 2002]、ヨーロッパ [BENZL 2004; ESSIG 1999]、*「北米」* [NEWTON 1979; RUBIN 1991; VALENTINE 2007]、*「東アジア」* [ROFEL 1999]、*「東シリア」* [VANITA 2002]、*「キプロス」*、*「オーストラリア」* [Jolly and MANDERSON 1997; DOWSETT 1996]、*「中央」* [MURRAY and ROSCOE 1997]、*「インド」* [Moode and NDATSIHE 1994; DOWNHAM 1998] などがある。
- (9) MSM という用語は、一九八〇年代の後半から HIV/AIDS 研究の文脈で使用されるようになった。その用語の系譜学的研究については、例として、BOELSTORFF [2011] を参照。
- (10) 日本がゲイ男性が、アメリカ合衆国のエイズ報道の中に自分の姿を確認して居たとしていた [新々江 二〇〇五]。
- (11) HIV陽性者がアナルセックス時にコンドームを使用せずに挿入される性行為を一回行った場合に HIV に感染する確率は、オーラルセックス時にコンドームを使用しなくても口を挿入する行為を一回行ったとき二〇〇〇倍であると言われる。例として、CDC [2003] を参照。
- (12) 例として、キルヒマンは「ジェンダー研究とゲイコミュニティ研究」という二分法自体を無効と見做し、両者を一つの概念として扱った。この点については、RUBIN [1984]。この論文が、ゲイコミュニティがゲイコミュニティの問題を個性化したゲイコミュニティの問題やゲイコミュニティの問題を個性化したゲイコミュニティ由来と捉える。

(21) 日本が「ゲイ」男性をめぐると人類学的研究アプローチ [TREAT [1999]、McLELLAND [2000, 2005]、WIM [2001]、倉三 [110〇〇川]、この図説を参照。

参考文献

- ALLISON, B. D. 2005 "Constructing the Neoliberal Sexual Actor: Responsibility and Care of the Self in the Discourse of Barebackers." *Culture, Health & Sexuality* 7: 333-346.
- ALLISON, A. 1994 *Nightwork: Sexuality, Pleasure, and Corporate Masculinity in a Tokyo Hostess Club*. Chicago: University of Chicago Press.
- ALTMAN, D. 2001 *Global Sex*. Chicago: University of Chicago Press. (110〇〇川 「ゲイ・ゲイ」)
- BABU, F. 2003 "Out in Ncaragua: Local and Transnational Desires after the Revolution." *Cultural Anthropology* 18 (3): 304-328.
- BAYER, R. 1987 *Homosexuality and American Psychiatry*. Princeton: Princeton University Press.
- BERNARD, H. R. 1967 "Kalymnian Sponge Diving." *Human Biology* 39: 103-130.
- BLACKWOOD, E. 1998 "Tombois in West Sumatra: Construct-

ing Masculinity and Erotic Desire." *Cultural Anthropology* 13 (4): 491-521.

BOELSTORFF, T. 2005 *The Gay Archipelago: Sexuality and Nation in Indonesia*. Princeton: Princeton University Press.

———. 2007 "Queer Studies in the House of Anthropology." *Annual Review of Anthropology* 36: 17-35.

———. 2011 "But Do Not Identify as Gay: A Proleptic Genealogy of the MSM Category." *Cultural Anthropology* 26 (2): 287-312.

- BORNEMAN, J. 1992 *Belonging in the Two Berlins: Kin, State, Nation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- BOURGOIS, P. 1995 *In Search of Respect: Selling Crack in El Barrio*. Cambridge: Cambridge University Press.
- BASTROW, J. 1989 "Homophobia/Misogyny: Sexual Fears, Sexual Definitions." in S. Shaper and M. Wallis (eds.) *Coming on Strong: Gay Politics and Culture*. London: Unwin Hyman.
- BROWN, K. and LUTZ, C. 2007 "Grunt Lit: The Participant-Observers of Empire." *American Ethnologist* 34 (2): 322-328.
- BENZL, M. 2004 *Symptoms of Modernity: Jews and Queers in Late-Twentieth-Century Vienna*. Berkeley: University of California.

- CALLENDER, C. and L. M. KOCHENS 1983 "The North American Berdach." *Current Anthropology* 24 (4) : 443-470.
- CARBALLO-DIEGUEZ, A. and G. W. DOWSETT and A. VENTUNEAC and R. H. RAMEN and I. BALAN and C. DOLEVAL 2006 "Cybercartography of Popular Internet Sites Used by New York City Men who Have Sex with Men Interested in Bareback Sex." *AIDS Education and Prevention* 18 : 475-489.
- CARRER, J. 1995 *De Los Oros: Intimacy and Homosexuality among Mexican Men*. New York: Cambridge University Press.
- CARRILLO, H. 2002 *The Night is Young: Sexuality in Mexico in the Time of AIDS*. Chicago: University of Chicago Press.
- CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION (CDC). 2003 "Incorporating HIV Prevention into the Medical Care of Persons Living with HIV." *MMWR (Morbidity and Mortality Weekly Report)* 52 (RR12) : 1-24.
- CONNELL, R. W. 1987 *Gender and Power: Society, the Person, and Sexual Politics*. Cambridge: Polity Press.
- . 1995 *Masculinities*. Cambridge: Polity Press.
- CREED, G. W. 1984 "Sexual Subordination: Institutionalized Homosexuality and Social Control in Melanesia." *Ethnology* 23 (3) : 157-176.
- DONHAM, D. L. 1998 "Freeing South Africa: The "Modernization" of Male-male Sexuality in Soweto." *Cultural Anthropology* 13 (1) : 3-21.
- DOVER, K. J. 1978 *Greek Homosexuality*. Cambridge: Harvard University Press. (11004) [古代ギリシアの同性愛] 中尾和雄・上田和彦監訳(雄山堂)
- DOWSETT, G. W. 1996 *Practicing Desire: Homosexual Sex in the Era of AIDS*. Stanford: Stanford University Press.
- DOWSETT, G. W. and H. WILLIAMS and A. VENTUNEAC and A. CARBALLO-DIEGUEZ 2008 "Taking It Like a Man: Masculinity and Barebacking Online." *Sexualities* 11 : 121-141.
- DUGAN, L. 2003 *The Twilight of Equality?: Neoliberalism, Cultural Politics, and the Attack on Democracy*. Boston: Beacon Press.
- ENLOE, C. 2007 *Globalization and Militarism: Feminists Make the Link*. Maryland: Rowman and Littlefield.
- ESSIG, L. 1999 *Queer in Russia: A Story of Sex, Self, and the Other*. Durham: Duke University Press.
- PAROJHAR, J. 1999 "Technologies of Everyday Life: The Economy of Impotence in Reform China." *Cultural Anthropology* 14 (2) : 155-179.

- FREUD, S. 1905 *Three Essays on the Theory of Sexuality*. New York: Basic Books.
- FOUCAULT, M. 1976 *La volonté de savoir*. Paris: Gallimard. (19966) [性科学の歴史] 藤沢由雄監訳(雄山堂)
- GARTNER, R. B. 1999 *Betrayed as Boys: Psychodynamic Treatment of Sexually Abused Men*. New York: Guilford Press. (11004) [少年への性被害被害—児童虐待被害者の心理的治療] 田中和彦監訳(雄山堂)
- GAY, J. 1985 "Mummies and Babies' and Friends and Lovers in Lesotho." in E. Blackwood (ed.) *Anthropology and Homosexual Behavior*. New York: Haworth. pp. 97-116.
- GILL, L. 1997 "Creating Citizens, Making Men: The Military and Masculinity in Bolivia." *Cultural Anthropology* 12 (4) : 527-550.
- GILMORE, D. D. 1990 *Manhood in the Making: Cultural Concept of Masculinity*. New Haven: Yale University Press. (19964) [男らしさ] 田中和彦監訳(雄山堂)
- GREENBERG, D. F. 1988 *The Construction of Homosexuality*. Chicago: University of Chicago Press.
- GUTIERREZ, R. A. 1989 "Must We Deracinate Indians to Find Gay Roots?" *Out/Look* 1 (4) : 61-67.
- GUTMANN, M. C. 1996 *The Meaning of Macho: Being a Man in Mexico City*. Berkeley: University of California Press.
- . 1997 "Trafficking in Men: The Anthropology of Masculinity." *Annual Review of Anthropology* 26 : 385-409.
- GUY, D. J. 1992 *Sex and Danger in Buenos Aires: Prostitution, Family, and Nation in Argentina*. Lincoln: University of Nebraska Press.
- HAIG, T. 2006 "Bareback Sex, Masculinity, Silence, and the Dilemmas of Gay Health." *Canadian Journal of Communication* 31 : 859-877.
- HAKTIS, P. N. and J. T. PARSONS 2003 "Intentional Unsafe Sex (Barebacking) among HIV-Positive Gay Men who Seek Sexual Partners on the Internet." *AIDS Care* 15 : 367-378.
- HENNEY, P. 2005 "Bear Bodies, Bear Masculinity: Recuperation, Resistance, or Retreat?" *Gender and Society* 19 : 25-43.
- HEAD, G. 1981 *Guardians of the Flutes: Idioms of Masculinity*. Chicago: University of Chicago Press.
- . 1997 *Same Sex. Different Cultures: Exploring Gay and Lesbian Lives*. Boulder: Westview Press. (11004)

- 〇〇11 「暹羅のクマナキ一海軍」 暹羅参謀・ 轉
 曲集(後編) 照文館(註)
- HERDT, G. (ed.) 1982 *Rituals of Manhood: Male Initiation in Papua New Guinea*. Berkeley: University of California Press.
- (ed.) 1993 *Ritualized Homosexuality in Melanesia*. Berkeley: University of California Press.
- HERDT, G. and R. J. STOLLER 1990 *Intimate Communications: Erotics and the Study of Culture*. New York: Columbia University Press.
- HERZFELD, M. 1985 *The Poetics of Manhood: Contest and Identity in a Cretan Mountain Village*. Princeton: Princeton University Press.
- HIGATE, P. R. 2003 *Military Masculinities: Identity and the State*. London: Praeger.
- HOLMES, D. and D. WARNER 2005 "The Anatomy of a Forbidden Desire: Men, Penetration, and Semen Exchange." *Nursing Inquiry* 12: 10-20.
- JACKSON, P. A. and N. M. COOK (eds.) 1999 *Gender and Sexualities in Modern Thailand*. Chiang Mai: Silk-worm Books.
- JOLLY, M. and L. MANDERSON (eds.) 1997 *Sites of Desire, Economies of Pleasure: Sexualities in Asia and the Pacific*. Chicago: University of Chicago Press.
- KAPLAN, D. 2003 *Brothers and Others in Arms: The Making of Love and War in Israeli Combat Units*. New York: Harrington Park.
- KNAUFT, B. M. 2003 "What Ever Happened to Ritualized Homosexuality? Modern Sexual Subjects in Melanesia and Elsewhere." *Annual Review of Sex Research* 14: 137-159.
- LANCASTER, R. N. 1992 *Life is Hard: Machismo, Danger, and the Intimacy of Power*. Berkeley: University of California.
- LEVANT, R. F. and G. KOPPECKY 1995 *Masculinity Reconstructed: Changing the Rule of Manhood at Work, in Relationships, and in Family Life*. New York: Dutton.
- LEVY, R. 1973 *Tahitians: Mind and Experience in the Society Island*. Chicago: University of Chicago Press.
- LIECHTY, M. 2005 "Carnal Economies: The Commodification of Food and Sex in Kathmandu." *Cultural Anthropology* 20 (1): 1-38.
- LUTZ, C. 2006 "Empire is in the Details." *American Ethnologist* 33 (4): 593-611.
- MANALANSAN, M. F. 2003 *Global Dias: Filipino Gay Men in the Diaspora*. Durham: Duke University.
- MANDELBAUM, D. G. 1988 *Women's Sexuality and Men's*

- Honor: Sex Roles in North India, Bangladesh, and Pakistan*. Tucson: University of Arizona Press.
- MANSEGH, G. and G. MARKS and G. N. COLFAX and R. GUZMAN and M. RADER and S. BUCHBINDER 2002 "Barebacking" in a Diverse Sample of Men who Have Sex with Men." *AIDS* 16: 653-659.
- MARSHALL, M. 1979 *Weekend Warriors: Alcohol in a Micronesian Culture*. Palo Alto: Mayfield.
- MCCUNE JR, J. Q. 2004 "Transformation: Reading the Gospel in Drag." *Journal of Homosexuality* 47 (3-4): 151-167.
- MANNES, D. and J. BEAULIEU and G. PEERAGE 2009 "The Discourse of Gay Men's Group Sex: The Importance of Masculinity." *Culture, Health & Sexuality* 11 (6): 641-654.
- MCCLELLAND, M. J. 2000 *Male Homosexuality in Modern Japan: Cultural Myths and Social Realities*. Richmond, Surrey: Curzon.
- 2005 *Queer Japan from the Pacific War to the Internet Age*. Ithaca: Rowman & Littlefield.
- MOODIE, T. and V. NIDATSIHA 1994 *Going for Gold: Men, Mines and Migration*. Johannesburg: Witwatersrand University Press.
- MORRIS, L. 1997 *The Male Heterosexual*. Thousand Oaks: Sage.
- MOSHER, C. M. and H. M. LEVITT and E. MANNERY 2006 "Layers of Leather: The Identity Formation of Leatherman as a Process of Transforming Meanings of Masculinity." *Journal of Homosexuality* 51: 93-123.
- MOSSE, G. L. 1996 *The Image of Man: The Creation of Modern Masculinity*. New York: Oxford University Press.
- MURRAY, S. O. (ed.) 1987 *Male Homosexuality in Central and South America*. New York: Gay Academic Union.
- MURRAY, S. O. and W. ROSCOE (eds.) 1997 *Islamic Homosexualities: Culture, History, and Literature*. New York: NYU Press.
- NEWTON, E. 1979 *Mother Camp: Female Impersonators in America*. Chicago: University of Chicago Press.
- NANDA, S. 1990 *Neither Man nor Woman: The Hijras of India*. Belmont: Wadsworth. (一九九二年【カネハシ— 武代・カネハシ・カネハシ】 櫻葉輝・カネハシ・カネハシ 編(註))
- NIJAN, P. 2009 "Contemporary Masculinities and Young Men in Indonesia." *Indonesia and the Malay World* 37 (109): 327-344.
- ONG, A. 2006 *Neoliberalism as Exception: Mutations in*

- Citizenship and Sovereignty*. Durham: Duke University Press.
- PARKER, R. 1999 *Beneath the Equator: Cultures of Desire, Male Homosexuality, and the Emerging Gay Communities in Brazil*. New York: Routledge.
- . 2001 "Sexuality, Culture, and Power in HIV/AIDS Research." *Annual Review of Anthropology* 30: 163-179.
- PARTIDGE, D. J. 2008 "We Were Dancing in the Club, Not on the Berlin Wall: Black Bodies, Street Bureaucrats, and Exclusionary Incorporation into the New Europe." *Cultural Anthropology* 23 (4): 660-687.
- PASCOE, C. J. 2007 *Dude, You're a Fag: Masculinity and Sexuality in High School*. Berkeley: University of California Press.
- PALETZ, M. G. 1996 *Reason and Passion: Representations of Gender in a Malay Society*. Berkeley: University of California Press.
- PEARY, D. L. 2009 "Fathers, Sons, and the State: Discipline and Punishment in a Wolf of Hinderland." *Cultural Anthropology* 24 (1): 33-67.
- RIDGE, D. T. 2004 "It was an Incredible Thrill: The Social Meanings and Dynamics of Younger Gay Men's Experiences of Backbacking in Melbourne." *Sexualities* 9: 409-422.
- RIGGS, D. W. 2006 "'Seriousness' and 'Serodifference?': Resisting Polarized Discourses of Identity and Rationality in the Context of HIV." *Sexualities* 9: 409-422.
- ROSES, E. 2005 *A Radical Rethinking of Sexuality and Schooling: Status Quo Or Status Queer?* Devon: Rowman & Littlefield pub inc.
- ROFFEL, L. 1999 "Qualities of Desire: Imagining Gay Identities in China." *GLQ* 5 (4): 451-474.
- ROSCOE, W. 1987 "Bibliography of Berdache and Alternative Gender Roles among North American Indians." *Journal of Homosexuality* 14 (3/4): 81-171.
- RUBIN, G. 1984 "Thinking Sex: Notes for a Radical Theory of the Politics of Sexuality." in C. S. Vance (ed.) *Pleasure and Danger*. London: Routledge and Kegan Paul. pp. 263-319.
- . 1991 *The Catcombs: A Temple of Butthole*. in M. Thompson (ed.) Leatherfolk. Boston: Alyson. pp. 119-141.
- SHERREFF, D. and A. COVRE and P. HECAHRY 2010 "Discourses of Friendship between Heterosexual Women and Gay Men: Mythical Norms and an Absence of Desire." *Feminism and Psychology* 20 (2): 205-339-367.
- . 1991 *The Catcombs: A Temple of Butthole*. in M. Thompson (ed.) Leatherfolk. Boston: Alyson. pp. 119-141.

22A.

- STOLER, A. L. 2002 *Carnal Knowledge and Imperial Power: Race and the Intimate in Colonial Rule*. Berkeley: University of California Press.
- TAN, M. 1995 "From Bakla to Gay: Shifting Gender Identities and Sexual Behaviors in the Southern Philippines." in R. G. Parker and J. H. Gagnon (eds.) *Conceiving Sexuality: Approaches to Sex Research in a Postmodern World*. London: Routledge. pp. 85-96.
- TIGER, L. 1984 *Men in Groups*. New York: Bowers.
- TREAT, T. J. 1999 *Great Mirrors Shattered: Homosexuality, Orientalism, and Japan*. New York and Oxford: Oxford University Press.
- TUIN, D. 1997 *The Cassowary's Revenge: The Life and Death of Masculinity in a New Guinea Society*. Chicago: University of Chicago Press.
- VALENTINE, D. 2007 *Imagining Transgender: An Ethnography of a Category*. Durham: Duke University Press.
- VANCE, C. S. 1991 "Anthropology Rediscovers Sexuality." *A Theoretical Comment*. "Social Science and Medicine" 33 (8): 875-884.
- VANTTA, R. (ed.) 2002 *Queering India: Same-Sex Love and Eroticism in Indian Culture and Society*. New York: Routledge.
- WORKS, J. "Questions of Identity," in P. Caplan (ed.) *The Culture Construction of Sexuality*. New York: Tavistock. pp. 30-51.
- WESTON, K. 1993 "Lesbian/Gay Studies in the House of Anthropology." *Annual Review of Anthropology* 22: 339-367.
- WHITWORTH, S. 2004 *Men, Militarism, and UN Peacekeeping: A Gendered Analysis*. Colorado: Lynne Rienner.
- WIRAN, U. 1977 "Man Becomes Woman: Transsexualism in Oman as a Key to Gender Roles." *Man* 12: 304-319.
- WIM, L. 2001 *Beyond Common Sense: Sexuality and Gender in Contemporary Japan*. London and New York: Kegan Paul.
- 日本語
 母體 頁 二〇〇三 「女の心をめぐくれば」——ハンズ
 ネシムのチャンネル」松岡万亀雄 (編) 「性の文脈」
 雄山閣 二二六—二四八。
 河口和也 二〇〇三 「クノブ・ヌクテニース」岩波書店。
 キルモント・D・D 一九九四 「男と女の」人類学」前田
 俊子訳、春秋社
 國弘晴子 二〇〇九 「ゴジエラゴセックス——去勢した者
 たちの情交のありかた」奥野克己、推野若菜、竹ノ
 下祐二 (編) 『セックスの人類学』春風社、一七〇

- 一九六。
佐藤文香 二〇〇四 「軍事組織とジェンダー——自衛隊の
女性たち」慶応義塾大学出版会。
新ヶ江章友 二〇〇五 「日本におけるエイズの言説と「男
性同性愛者」」『インターカルチュラル』三：一〇〇
—一二三。
砂川秀樹 二〇〇三 「新宿二丁目が照射する異性愛社会」
松園万亀雄（編）『性の文脈』雄山閣、一九六—二
二五。

(しんがえ・あきとも 名古屋市立大学)